

一 中学生徒の最善最高の自覚と実践 NO7(R5.10.12)

○主幹教諭より

〇〇の秋といわれる時節となりました。9月の暑さがどこにいったのか、涼しい毎日が続いております。

さて、そのような中、本校では、夏休み前に実施した「学校評価アンケート」や「全国学力学習状況調査」、また日常の学校生活での子供たちの様子などから課題を分析し、2学期の重点取組事項として「授業改善」、「学び合いタイムの充実」、「家庭学習の充実」、「担当する校務分掌の徹底」の四つの柱を中心に日々実践を進めているところです。

「授業改善」では、「生徒が学んでいる授業」をめざし、教員一人一人が授業力向上のため、授業公開や研究授業などに取り組んでいます。県教委や市教委からも講師をお招きして、生徒とともに成長する気概を持って日々研鑽に努めています。

「学び合いタイムの充実」では、朝の時間の取組から、日常の授業の中でもその取組が見られるようになってきています。誰とでも分け隔てなく活動し、クラスみんなで協力して分かる喜びを共有していくため、更なる活動の充実を進めています。

「家庭学習の充実」では、全国学力学習状況調査の結果から、昨年度よりも大幅に結果が良くなっていました。このことは、学校だけの取組ではなく、ご家庭での子供たちへのお声かけなどをいただいた結果だと思えます。今後も引き続き、ご支援いただくとともに学校としても内容の高まりをめざし、分からない問題を3回繰り返し解くなど、具体的方法を示しながら取り組んでいきます。

「担当する校務分掌の徹底」では、全ては子供たちのために、職員それぞれの立場で、現在の課題(問題点)を常に把握・分析し、改善のための具体策を検討し、取り組んでいます。今後は、徹底するための工夫をチームで協議し、子供たちのためにどうすべきか日々考えながら実践していきます。

『みんなが安心して笑顔で過ごせる学校』をめざし、実りの秋となるよう職員一同がんばっていきますので、これまで同様、ご支援、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

☆最善最高☆

～八代中体連駅伝競走大会～



☆自覚と実践☆

～研究授業・社会科～

